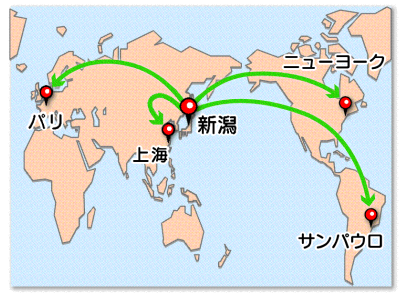
2017年03月06日 新潟日報 朝刊 解説面 009頁

(C)新潟日報社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

グローバル にいがた

国際交流拠点から

新潟日報社が開設した米ニューヨーク（NY）、ブラジル・サンパウロ、中国・上海、欧州（パリ）の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子をリポートしてもらい、毎月第1月曜日に紹介しています。また、新潟日報ホームページ「モア」にも掲載し、感想や意見を受け付けています。



第1月曜掲載

from パリ

原田　哲男さん
＝新潟市秋葉区出身＝

夢を抱かせる美術館

フランスの新しい年は、特に寒い冬から始まりました。氷点下5～10度ほどの日が数日続きました。この寒さにも負けず展覧会に行く人がパリはたくさんいます。

現代美術館ポンピドーセンターが今年で40周年を迎えました。1977年にオープンしましたが、工事が始まった頃は反対運動も起こりました。今では世界で2番目のコレクションを持つ大切な現代美術館になり、パリにとってもなくてはならない観光地です。

この工場のような外観はイタリア人レンゾ・ピアノとイギリス人リチャード・ロジャースという2人の建築家によるものです。歴史的な建造物が立ち並ぶ中で斬新な建築、工場というイメージが反響を呼び、大変な話題になったわけです。

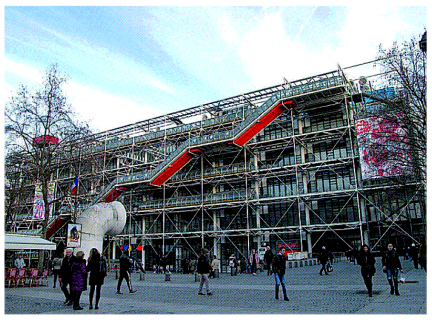
エスカレーターが建物の外に設置され、パイプのような空調設備が建物の周りに配置されています。展覧会を見に来て、エスカレーターを昇りながらパリを眺めることができます。最上階にはとてもモダンな展望レストランもあります。

美術館と図書館が総合的に一緒になった文化センターというわけで、他に映画館、隣には音響音楽研究所もあり、今は大変な入場者でにぎわっています。2010年にはメッスに日本人建築家、坂茂が手掛けたポンピドーセンター・メッス分館もオープンしました。

フランス以外の国にも造る計画があるようです（スペインのマラガにオープンするというようなニュースを聞きました）。フランスは文化国家です。文化が社会に浸透し、それが国の方針として成り立ち、経済界や国際政治にも影響力を持つほどに芸術、文化に力を注いでいます。文化は時間がかかりますが残るものです。夢を持たせてくれるものです。日本も見習うところがあるように思います。

日本の若者にも見てほしい美術館の一つです。私も時々見に行っていますが、若い頃わくわくしながら見て歩き、自分の作品が美術館で見られるような作家になりたいと夢を見るようになりました。現在、米国の画家サイ・トゥオンブリーの展覧会が開催されています。とても自由な表現の作家で楽しく見ることができました。

（原田さんは1949年生まれ。パリ在住44年の彫刻家で本社国際交流拠点欧州事務所代表、新潟・フランス協会パリ支部長です）


エスカレーターが建物の外に設置されているパリのポンピドーセンター

日系人が参加するイベント。1世の高齢化が進むなど、日系社会は変化を遂げている＝サンパウロ

from ブラジル

佐久間　吾朗さん
＝新発田市出身＝

祖国息づく日系社会

ニューヨーク留学中、南米系の友人の底抜けに明るい所に引かれて2015年にサンパウロに移り住み、現地の日系人向けの邦字紙「サンパウロ新聞」の記者として忙しい日々を送っています。

ブラジルには戦前・戦後の移民やその子孫ら、多くの日系人が住んでいます。世界に点在する日系社会の中でも、ブラジルには日本文化が今も色濃く残っており、その中でもサンパウロ市には世界最大の日系社会が存在しています。

日本から移住した両親を持つ日系2世の人たちは、今も流ちょうな日本語を話します。彼らが使う言葉には、現在の日本ではあまり使われなくなったものも残っています。

例えば「メモ」は「帳面」、「トイレ」は「厠（かわや）」、または「便所」といった具合です。思わぬ所で1世紀以上の日本移民の歴史を感じさせてくれます。また、日本語とポルトガル語が交ざった「コロニア（植民地）語」という、日系社会ならではの言葉も存在します。

そんな彼ら（加えて戦後すぐの日本人移民）が日本へ行くと感じるのは「何でもかんでも英語」ということ。日本語が分かるつもりで日本へ行ったのに、実際に行ってみたら日本語であるはずの言葉が英語に変わっており、困惑してしまうというのです。

われわれ記者も記事を書く際には、この点に注意しており、片仮名の単語は高齢の読者にも分かるよう、できるだけ分かりやすい日本語で表現するようにしています。しかし、1985年生まれの私にとっては、これがけっこう難しい。どういう言葉遣いが的確なのか、日々頭をひねっています。

今や日系人も6世が誕生している時代。日本語が話せない若い日系人も珍しくありません。一方で、自らのルーツに真摯（しんし）に向き合い、積極的に日本文化を継承している若者も多く存在します。

日本と新潟をこよなく愛する私としては、日本を愛し、日本文化を受け継いでくれる彼らのような存在は、やはりうれしいものです。

（佐久間さんは県内の専門学校を卒業後、米国に留学。新潟日報社と友好関係にあるサンパウロ新聞の記者をしています）

from NY

真由美　ジョージさん
＝新潟市東区出身＝

地下鉄の階段 つらい

16年間住んだハワイを離れ、3年前の12月、大雪の日にニューヨーク（NY）に到着しました。寒いから気を付けてと周囲の人たちから言われ、新潟生まれだから大丈夫と自信を持っていましたが到着後にすぐ、ハワイに戻りたい！と考えたことを思い出します。

ハワイとNY。気候も景色も人種も何もかも違う環境に最初はびっくりしました。のんびりハワイアンとスピーディーなニューヨーカー。同じ英語を話しているのに違う言葉にさえ聞こえました。生活を始めてみると、違いに戸惑ったり、あらためてNYの大きさを楽しんだり。

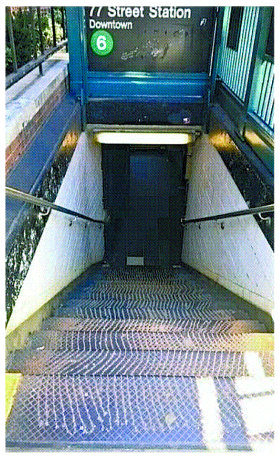
移動はおおかた地下鉄ですが、とにかく階段ばかりで面倒です。ほとんどの駅にエスカレーターがなく、重いスーツケースを持つ必要がある時には、地下鉄はやめます。ふと思ったのは車椅子の方が地下鉄を利用していないこと。「車椅子利用可能」の表示は主な駅にありますが実際は工事中だから利用できないとか、全駅にエレベーターがあるわけでもなく、電車とホームの間にかなり隙間があるなど、どう見ても車椅子で利用できる状況ではありません。米国はバリアフリーが進んでいると思っていたのでNYがこんなに不便とは考えてもみませんでした。

車椅子の方が移動するには何がいいか。いろいろな方に質問したら、交通渋滞が多いにもかかわらずほとんどが「地下鉄はありえない。タクシーが一番良い方法だ」との回答でした。NYでは赤ちゃんをベビーカーに乗せた人が階段にいたら必ず誰かが手助けをしています。せめて駅にエスカレーターがあれば車椅子の方も利用しやすくなるのにと思います。

サービス面の違いもたくさん。年末久しぶりに日本に行き、ハンバーガー屋さんでアイスティーを注文したら「ストローをグラスにお入れしてよろしいですか？」と聞かれ、びっくりしました。同じ系列の店でもNYなら従業員はおしゃべり優先。客を見ずに飲み物を渡すのは普通のことで客にとっても当たり前です。ハワイだったら「アロハー」とフレンドリーに話し掛けてくるでしょう。

もちろんNYにも素晴らしいサービスを行っている店はたくさんあります。米国に住んで20年ほどたちますが毎日が発見です。

（真由美さんは1966年生まれ。アパレル会社で主任をしています）



ニューヨークの地下鉄につながる階段

from 大連

中野　未穂さん
＝三条市出身＝

日本人学校 個を尊重

中国の大連に住み始めて3年がたとうとしています。大連は中国東北遼東半島の最南端にあり、人口は約600万人の都市です。日本とも歴史的なつながりがあり、日本語を話せる中国人の方も多く、とても住み心地の良い町です。港町のため、海産物がとてもおいしいのも魅力の一つです。

現在私は、大連の郊外にある日本人学校で小学1年生から中学3年生に音楽を教えています。もともとは東京都内の中学校に勤務していましたが、海外で働くことに興味があり、経験を生かせる場を探し、縁があって大連日本人学校で働くことになりました。

親の転勤などで日本の各地から来た子供や、もともと大連に住んでいる子供らが通っており、児童生徒数は小・中学生合わせて129人と小規模な学校です。子供たちの間で人気が高い音楽はJポップやアニメ主題歌。授業では毎回ではありませんが中国の童謡を歌うこともあります。中国語も日本語も共に上手に話す子供が多くいるため、子供たちからも中国の良いところを教えてもらえます。

初めは、それまで勤務していた学校よりも子供の数が少ないことに戸惑いもありました。しかし慣れてくると、一人一人の子供としっかり向き合いながらそれぞれに合った指導を考えていけることが、何よりも良い点であると感じるようになりました。

そして学年を超えた、子供たち同士の関わりの深さもすてきなところです。中学生と小学校低学年が一緒に活動したり、併設している幼稚園との合同行事があったりと、小規模な学校だからこそできる取り組みがたくさんあります。

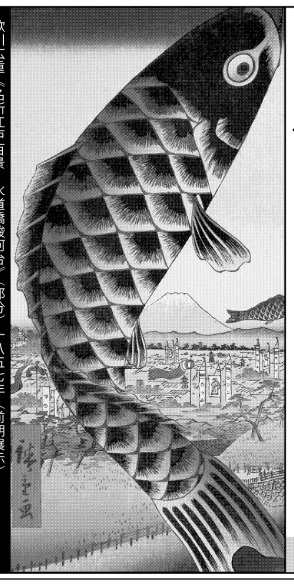
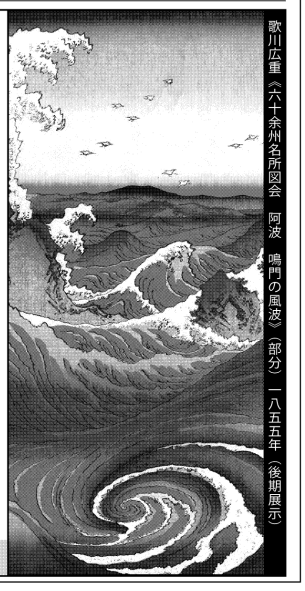
先日、中学3年生が音楽の授業で取り組んだサックスのミニ発表会を開催しました。卒業を目前に、小学生から中学生までの後輩全員への思いを校歌にのせ、心のこもった演奏を届けることができました。国内の学校では通常取り組むことのない活動ができることも、ここでの魅力です。お客さんとして聴いてくれた子供たちの、素直な反応と温かい雰囲気は、ここならではということを改めて実感したひとときでした。

大連で子供たちに音楽を教えていて、心からやりがいを感じる瞬間です。

（中野さんは1985年生まれ。大連日本人学校の教員です）

中学3年の生徒が小中学生の後輩への思いを込めて演奏したサックス発表会

冬の大感謝企画
3月17日迄
得とくプラン
一泊二食 平日限定 一室4名様以上の場合
鍋物 揚げ物 舟盛り 釜ゆでずわいガニ切り身 釜飯 焼物 カニ汁 酢の物 デザート
地魚メインに料理7品 他、カニ汁・釜飯・漬物 付
※個室宴会等の料金はお問い合わせください。
※お食事は仕入れ等の都合により、予告なく内容が変更になる場合がございます。
期間中!! さらにお得!!
通常6,300円が→5,800円より(税別)
◉日曜～金曜（祝前日除く）※土曜・祝前日の料金はお問い合わせください。
◉3名様以下でのご利用の場合はお問い合わせください。
◉寺泊駅まで無料送迎致します。
一泊二食 平日限定 特別企画
釜ゆでずわいガニまるごと一杯付コース
釜ゆでずわいガニまるごと1尾 など料理7品 他、カニ汁・釜飯・漬け物 付
一室4名様以上の場合
7,500円～（税別）
釜ゆでずわいガニまるごと 40分食べ放題コース
釜ゆでずわいガニまるごと 40分食べ放題 など料理5品 他、カニ汁・ご飯・漬け物 付
一室4名様以上の場合
8,000円～（税別）
日帰り 5,000円～（税別）
日本海一望の展望風呂も大好評！
さらに! ご宿泊の利用で
姉妹店 寺泊さんぱちの湯に 無料でご入浴いただけます!!
かにの宿 きんぱち
長岡市寺泊花立（寺泊水族館前）
TEL.0258-75-4258
ホームページ・モバイルサイト 寺泊きんぱち 検索
日帰り・宿泊各コース共、年末年始、GW、夏期、他繁忙期は特別料金となります。詳しくはお問い合わせください。


歌川広重《名所江戸百景 水道橋駿河台》（部分） 一八五七年（前期展示）
原安三郎コレクション
広重ビビッド
―広重・北斎・国芳、至高の初摺（しょずり）―
HIROSHIGE VIVID
摺りたてのような保存状態、夢のコレクション、大公開。
[前期] 3.18(土)～4.16(日)
[後期] 展示作品ほぼ総入れ替え 4.18(火)～5.21(日)
新潟市美術館 〒951-8556 新潟市中央区西大畑町 5191-9
お問い合わせ／TEL 025-223-1622
休館日：月曜日・3月21日（火） ●3月20日（月・祝）・5月1日（月）は開館
[観覧料]
一般前売……800円
一般当日……1,000円（団体800円）
大・高校生……800円（団体600円）／中学生以下無料
●リピーター割引 半券提示で2回目は団体料金に割引
[前売り券販売所]
インフォメーションセンターえん、新潟市美術館、セブン-イレブン ほか
※NIC新潟日報販売店でもお取り寄せできます。
■主催：新潟市美術館、BSN新潟放送 ■共催：新潟日報社

歌川広重《六十余州名所図会 阿波 鳴門の風波》（部分） 一八五五年（後期展示）